

研修会報告

令和7年2月8日

文責：鎌田 将矢

研修会名 : 生物化学分析部門研修会
テーマ : 「品質保持のための文書管理テクニック」
開催日時 : 令和7年2月8日(土) 14:00 ~ 16:10
会場 : Zoom ウェビナーを用いた Web 開催
司会 : 播磨 晋太郎、戸村 弘樹
生涯教育点数 : 基礎教科 20 点
参加者 : 会員参加者 39 名 賛助会員 1 名
合計 40 名

【プログラム】

講演 1

「検査室で求められる文書管理」

講師：東北医科薬科大学病院 検査部 星 くに子 技師

パネルディスカッション

「文書管理方法の実例紹介と自施設の課題」

パネリスト

仙台オープン病院 診療支援部 臨床検査室 齊藤 優果 技師

仙台市立病院 臨床検査科 小林 航太 技師

気仙沼市立病院 診療技術部 臨床検査室 吉田 信 技師

東北医科薬科大学病院 検査部 高橋 瑞恵 技師

東北大学病院 診療技術部 臨床検査部門 平田 和成 技師

各施設の発表後、総合討論

【内容】

「品質保持のための文書管理テクニック」と題し研修会を企画した。医療法改正から数年が経ち、手順書や記録類などの文書は揃ってきている頃だが、管理方法はこれで問題ないのか、より最適化できないか、などと悩む機会は多いことと思う。今回はそういった悩みを少しでも共有・解決するために、各施設の文書管理方法の実例をパネルディスカッション形式で紹介していただいた。

講演 1 では、東北医科薬科大学病院の星くに子技師から、医療法改正で義務付けられた文書について発表していただいた。各文書に必要な項目について分かりやすく解説していただき、また自施設でどのような内容を記載、もしくは管理しているか詳しく解説していただき貴重な内容であった。

パネルディスカッションでは、5人の講師に自施設の文書管理方法と課題について講演いただいた。各施設で文書管理において工夫を凝らしており、非常に参考となった。質疑やデ

ディスカッションでは、病棟検査機器の管理方法、内部精度管理方法、試薬管理、検査件数の記載方法、文書（電子データ含む）の保管期間（廃棄タイミング）について複数挙げられた。今回発表していただいた施設が保健所監査で指摘された方法と同じ方法をとっている場合、今後の保健所監査で指摘される可能性もあるため、今回の研修会をもとに対策をしてほしい。血糖測定機器などの病棟検査機器においては、病院規模で業務量が異なってくることや、看護師や臨床工学技士など他職種との兼ね合いもあるため、各施設にあった対策を検討してほしい。また、発表内容の中に文書管理や試薬管理など各種システムもあったが、今後はシステムの導入方法やシステムの具体的な活用方法についても共有できる機会があればと思う。

今回の研修会を通して、各々の施設にあった文書管理方法を見つけることができれば幸いである。今後の研修会においては、記載して頂いたアンケート結果を基に有用な研修会を企画していく。